

いしのまき 水辺の緑のpromenade計画 (案)

平成24年10月

いしのまき水辺の緑のpromenade計画懇談会

1 計画の策定にあたって

いしのまき水辺と緑のプロムナード計画は、旧北上川と石巻湾の水辺を活かして栄えた石巻湊を礎として、石巻が発展していったことを背景としています。さかのぼると、江戸時代に川村孫兵衛が北上川改修工事を行ったことを契機に石巻が多いに栄え、江戸の米の半分を石巻港から積み出していたいわば宮城の経済的拠点となっていたという歴史があります。

このような歴史をつないでいき、今後、市民や観光客が気軽に水辺に集い、街がにぎわい、人々が憩いを楽しむ。そして、将来を担う子供たちがふるさと石巻を学べることの出来る、石巻らしい水辺を創出したいという強い思いの中で、平成23年2月に策定しました。

その後、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえて、災害復旧事業や復興に向けたまちづくりが始まっています。

本計画は、当初策定した計画の骨格を継承しつつ、復旧・復興に向かって整備される新たな堤防・護岸等を活かし、背後のまちと水辺のつながりを生み出し、新たな魅力をもった「まち」を構成する要素の一つとしてプロムナードの整備の方向性を検討するとともに、ルート・拠点の利活用方策について見直しを図ったものです。



プロムナード計画見直しのルートと拠点位置

目次

※本計画案に記載のルート及び拠点の名称は案(仮称)であり、今後、公募等により親しみやすい呼称しやすい名称を決める予定。

1_計画の策定にあたって	1頁
2_計画策定の経緯	2頁
3_状況の変化に応じた計画の見直し	3頁
4_プロムナードルート及び拠点の選定	4頁
5_雲雀野海岸のルート、拠点、ポイント	5頁
5-1 雲雀野海岸のポイント	5頁
5-2 ルート①:「太平洋を眺める潮風のルート」	6頁
5-3 拠点B:「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」	7頁
6_旧北上川左右岸下流のルート、拠点、ポイント	8頁
6-1 旧北上川左右岸下流のポイント	8頁
6-2 ルート②:「旧北上川と石巻湊ルート」	9頁
6-3 拠点B:「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」(再掲)	(7頁)
6-4 拠点C:「食彩・感動いしのまき」	11頁
6-5 拠点D: 『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間	12頁
6-6 ルート③:「居住と産業が隣接した憩いのルート」	13頁
7_旧北上川上流のルート、拠点、ポイント	14頁
7-1 旧北上川上流のポイント	14頁
7-2 ルート④:「川の風を楽しむルート」	15頁
7-3 ルート⑥:「スポーツと学びのルート」	16頁
7-4 拠点F:「旧北上川水辺広場」	17頁
8_北北上運河のルート、拠点、ポイント	18頁
8-1 北北上運河のポイント	18頁
8-2 ルート⑤:「運河ルート」	19頁
8-3 拠点G:「水辺の交流広場」	20頁
8-4 拠点H:「水と緑と子供たちの広場」	21頁
9_サイン計画について	22頁
10_プロムナード計画の避難の考え方	25頁
11_具体化に向けた取り組みの提案 (参考資料) 関連計画の概要	27頁 28頁

2. 計画策定の経緯

(1) 計画策定の背景・目的

- 石巻には、悠々とした流れを感じる旧北上川や近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河（貞山運河）、潮風を感じ往來する船舶を眺められる雲雀野海岸などの貴重な水辺空間があり、水運で栄えた石巻の顔、そして観光資源である。
- しかし、これら水辺空間は、歩行者が安全で快適に歩くための散策道が整っていないことや、地域資源が十分に活用されていない等の問題や課題があり、市民や観光客が気軽に水辺に近づき散策を楽しめる環境にはなっていない。
- そのため、水辺のすばらしさを感じ、安全で快適に散策できる「いしのまき水辺の緑のプロムナード」を整備そして水辺の利活用の促進を図るものである。

(2) 計画の目的と期待する効果

- ① 市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら歴史文化等を知る。
- ② 将来を担う子供たちに旧北上川との関わりを学び知ってもらう。
- ③ 人々の憩いと健康の増進。
- ④ 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

当初策定範囲(全延長 約14km)



【当初計画の前提】

- 中心市街地を囲む水辺空間(雲雀野海岸～旧北上川～北北上運河)を計画範囲とする
- 計画目標を概ね10年後とし、プロムナードのイメージや断面についても10年後の姿をイメージ
- 気軽に水辺に親しむ計画のため、水上利用の検討は行わない
- 整備等の方向性を定めた計画(具体的な計画やスケジュールは無い)
- 計画に記載の整備・管理・利活用は、国・県・市・民間・NPOや市民団体・市民等を範囲とする

(3) 当初計画策定までの流れ

当初計画は、平成22年度に合計3回の計画策定懇談会を開催し、計画案を作成するとともに、市民との意見交換会やシンポジウムを開催し、計画案を修正して計画を策定した。

懇談会メンバーは、旧北上川や北北上運河で活動を行っている市民団体、石巻湊の歴史、観光振興、女性や若者の視点などから6名の委員を選任し、行政担当として国土交通省、宮城県等から4名にオブザーバーとして参画いただいた。(委員及びオブザーバー 計10名)

第一回懇談会 平成22年5月13日

良好な景観や史跡などのポイントを抽出・整理

第二回懇談会 平成22年8月18日

ポイントをつなぐプロムナードルートの検討

第三回懇談会 平成22年10月12日

ルートイメージの検討(イメージパスまたは断面)

懇談会案 市へ提言

計 画 案 OUTPUT

市民との双方向
の意見交換

町内会長との意見交換、シンポジウム

市民との意見交換(計画調整)

10月25日～11月5日
治川住民との意見交換会

12月5日
シンポジウム開催

平成23年2月策定

H23年3月11日 東日本大震災発生

計画策定直後に東日本大震災が発生し、予定していたプロムナード計画の具体化や、堤防整備に合わせまちづくりと一体となった整備に向けた動きが中断した。

いしのまき水辺の緑の計画の
懇談会(3回開催)

3. 状況の変化に応じた計画の見直し

計画の見直しの概要

● 震災復興基本計画に基づく堤防沿いの土地利用、各地区の特徴等を踏まえプロムナード計画のルート・拠点に期待される役割を整理し、当初計画の骨格は継承しつつ、以下のようにプロムナード計画(拠点及びルート)の一部見直しを行った。

- ・拠点B : 震災復興基本計画に基づく祈念公園構想を基に旧計画の拠点A(臨港緑地)と拠点E(マリナー)を集約
- ・拠点D : 中瀬に加え、住吉公園や雄島付近も一体となった歴史・文化的拠点として改めて位置付け
- ・ルート③ : 震災復興基本計画に基づく居住と産業の土地利用を踏まえ、人の集いと憩いの拠点機能を合わせ持つルートとして役割の変更
- ・ルート⑥ : 新たな堤防整備に合わせて新規ルート設定

・当初計画



・見直し計画



雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- A 拠点「石巻臨港緑地」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)

- ② ルート「旧北上川右岸下流」
- B 拠点「文化センターと離島航路待合所」
- C 拠点「旧丸光ビル周辺」
- D 拠点「中瀬・内海橋」

旧北上川左岸(川口～湊～八幡)

- ③ ルート「旧北上川左岸」
- E 拠点「ヤマニシ造船所跡地」

旧北上川右岸上流(水明～大橋～運河交流館)

- ④ ルート「旧北上川右岸上流」
- F 拠点「大橋地区」

北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑤ ルート「北北上運河」
- G 拠点「運河交流館」
- H 拠点「水と緑と子供たちの広場」

雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- B 拠点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)、旧北上川左岸下流(川口～湊～八幡)

- ② ルート「旧北上川右岸下流」
- B 拠点「祈念公園と水上交通拠点」
- C 拠点「観光と賑わい(中央街区周辺)」
- D 拠点「石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)」
- ③ ルート「旧北上川左岸下流」

旧北上川上流(水明～運河交流館・石巻専修大学)

- ④ ルート「旧北上川右岸上流」
- ⑥ ルート「旧北上川左岸上流」 → **新設**
- F 拠点「大橋地区」

北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑤ ルート「北北上運河」
- G 拠点「運河交流館」
- H 拠点「水と緑と子供たちの広場」

見直し

【見直し計画の前提】
 ■ 計画目標は震災復興基本計画に基づく関係事業の目標と同一とする。
 ■ 整備等の方向性を定めたものであり、具体的な計画やスケジュールは関係事業と調整を図る。

4. プロムナードルート及び拠点

いしのみき水辺の緑のプロムナード見直し計画案
 ルート及び拠点(6ルート6拠点)

凡 例

- プロムナードルート
- 拠点 ①～⑥
- 拠点 B～H



※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約
 ※石巻港における客船寄港推進との連携と、市街地を環て囲むネットワーク導線を追加考慮

新規ルート

雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- ② 拠点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)
 旧北上川左岸下流(川口～湊～八幡)

- ③ ルート「旧北上川右岸下流」
- ④ 拠点「観光と賑わい(中央街区周辺)」
- ⑤ 拠点「石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)」
- ⑥ ルート「旧北上川左岸下流」

旧北上川上流(水明～運河交流館・石巻専修大学)

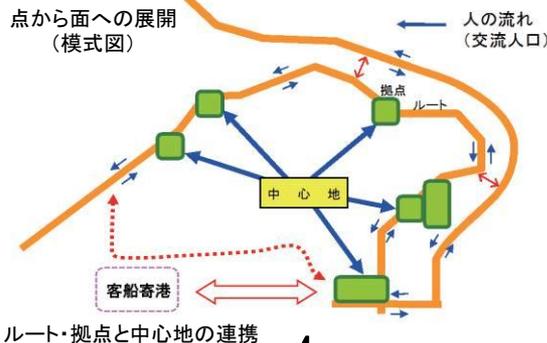
- ⑦ ルート「旧北上川右岸上流」
- ⑧ ルート「旧北上川左岸上流」 → 新設
- ⑨ 拠点「大橋地区」

北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑩ ルート「北北上運河」
- ⑪ 拠点「運河交流館」
- ⑫ 拠点「水と緑と子供たちの広場」

水辺の緑のプロムナードによる 中心市街地活性化の推進 (点から面への交流人口の広がり)

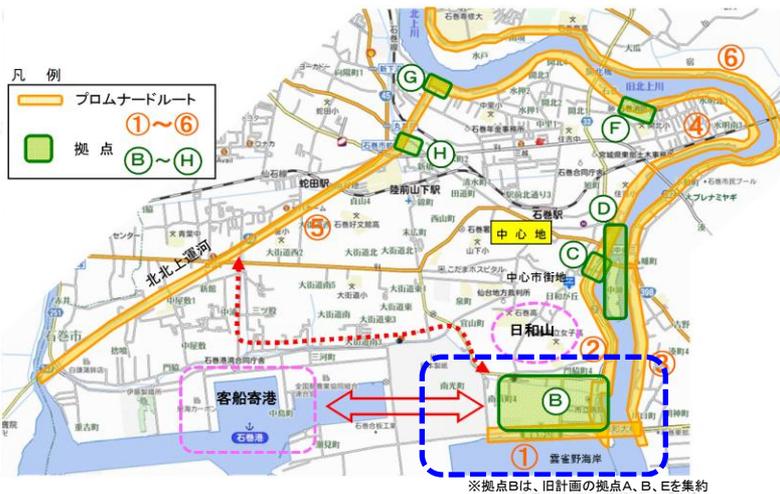
- 駅や市役所などの中心地から、中瀬などの「拠点」へと人の流れをつくり、さらに「拠点」からルートを通して次の「拠点」や、ルートの往復により、中心地の点を面的な広がりへと展開。
- 展開にあたっては、拠点の魅力を高めるとともに、ルートを生きてみたくするようなイベントなどの企画が大切(例えば歴史探訪ツアーなど)
- 拠点には、機能として「トイレ」「休憩施設」「駐車場」「バス停(近傍)」を備える必要性(ルート・拠点ごとに特徴あり)。
- 中心地から拠点への移動については、みんなが利用でき、環境にやさしい自転車での移動や回遊も検討



5. 雲雀野海岸のルート、拠点、ポイント

5-1 雲雀野海岸のポイント

雲雀野海岸の位置



- 雲雀野海岸は、石巻湾が望める素晴らしいロケーションであり、展望台からは往来する船や遠くの島々が眺められる。特に日和大橋からは、雄大な石巻湾と市街地・旧北上川が眺望。
- 波の音そして潮風が心地よい。
- 臨港道路は交通量が多い。海岸では震災後も釣りををする人の姿を見かける。
- 津波によって甚大な被害を受けたことから、新たな海岸防潮堤が整備される。
- 雲雀野海岸の沿川には、石巻の歴史そして危険と隣合わせだった千石船の船乗りたちの思いを今に伝えている「濡れ仏」や巽(たつみ)神社や恩賜燈があったが、津波により損傷・消失しており、これらの歴史を伝えていく必要がある。

雲雀野海岸

震災前の雲雀野海岸



海岸の史蹟等(津波により流出・損傷)

濡れ仏(損傷)



石巻絵図より



▲石巻絵図の濡れ仏

河口港石巻港の水難防止のため作られた燈台で、現在地より川側にあったが移設されたものという

注)碑にみえる北上川改修事務所 今泉政勝氏は、明治44年～昭和9年に行われた北上川改修工事を担当した北上川改修事務所(昭和9年7月31日廃止)の工事であり、昭和9年度は同事務所石巻工場(石巻市門脇町海岸通)勤務であった
石巻工場は昭和6年～9年に施工された旧北上川河口導流堤を担当していた

恩賜燈



たつみ巽神社(流出)



震災後の雲雀野海岸と臨港道路



被災した雲雀野海岸の展望台



臨港道路

交通量が多い



日和大橋



日和大橋は市街地や海を一望できるすばらしい景観が楽しめる